社会的養護未経験者への調査結果について

資料２

＜調査概要＞

期間	令和８年２月６日及び７日
対象者	ふらっとホーム利用者　５名 （特定非営利活動法人ブリッジフォースマイル　B4S PORT あきば）
実施方法	対面・インタビュー方式
実施場所	ふらっとホーム事業所（ふらっとホーム事業者立会い）

＜調査票＞ 資料３のとおり

＜調査結果（概要）＞

○５名全員女性、年齢は１０代後半から３０代前半まで

○大学進学、アルバイト（芸術活動中）、生活訓練中、生活保護受給中、障害者雇用中、と現在の状況は様々

○**当時、公的支援等につながらなかった理由**

→「存在を知らなかったから」「当時の自分の状況を自覚していなかった」（５名中３名）

○**ふらっとホームを知った経路**　→「他の居場所を通じて知った」（５名中３名）

○**ふらっとホームの利用目的**

→「自身の課題改善を図る場として利用」（５名中３名）「当事者間の交流」（５名中２名）

○**ふらっとホームを知ってもらうためにどんなことをしたら良いか**

→「学校でのチラシ配布」「授業で教える」など学校を通じた訴求が有効との意見

→「学校でのアンケートなど周りの人が虐待に気がつく仕組みが重要」との意見

→「相談窓口だけでなく、相談するための人間関係を構築する機会・場を増やすべき」との意見

○**困っていること**

→「仕事のこと」（仕事をするための体力、コミュニケーション能力、など）

→「家族のこと」（実家を出たいが生活力が無い、親とはつながりたくないがきょうだいとはつながりたい、など）

○**ふらっとホームを含め、どんな支援があったら利用したいか**

→「気軽に訪問・相談できる公的な相談窓口」「不安やトラブルなどを相談できる機会」
「ワークショップ」（相談するための人間関係を構築する機会としてなど）